

新宿区民会議＜会議録＞

名 称	第7回 第2分科会議事録	場 所	新宿区役所 第2分庁舎 2階 2-①会議室
日 時	平成17年9月28日 午後2時00分～午後4時00分	記録者	【学生補助員】 田中 岸本
		責任者	区事務局（青柳）
出席者： 39名 傍聴者： 0名 (区民委員： 33名 学識委員： 2名 事務局： 4名)			
<p>■ 配布物</p> <p>① 式次第</p> <p>② 資料1 第6回 分科会会議概要</p> <p>③ 資料2 生きがいについて</p> <p>④ 次回開催通知</p> <p>⑤ 配布資料 新宿区都市マスタープラン〔概要版〕</p> <p>⑥ 配布資料 歩きたくなるまち 新宿（新宿区まちづくりグランドデザイン）</p> <p>⑦ 配布資料 第4回「新宿まちづくり講座」</p> <p>■ 進行内容</p> <p>1 開会</p> <p>2 「生きがい」について</p> <p>3 グループ討議</p> <p>4 全体討議</p> <p>5 閉会</p> <p>■ 会議内容</p> <p>【発言者】 ●：区民委員 ◎：学識委員 ○：区事務局</p> <p>1. 開会</p> <p>○：これより第7回第2分科会を行います。</p> <p>今回から、「生きがい」をテーマに検討いたします。</p> <p>まず連絡事項をお伝えします。</p> <p>今後の日程ですが、これまでどおり原則として第2土曜日午前と第4水曜日に開催します。ただ、11月第4水曜日と12月第4水曜日はそれぞれ、11月30日（水）午後、12月21日（水）午後に変更します。</p> <p>また、中間まとめ発表会は平成18年2月19日（日）笹笹町区民ホールにて開催します。</p> <p>次回世話人会は、10月5日（水）午前10時30分から、交流の場で行います。</p>			

2. 「生きがい」について

◎：これから生きがいについて検討していきますが、今回はグループディスカッションを行い、次回分科会では、実際に活動されている方からお話を聞きたいと思います。

今後、生きがいについて話し合っていく上で、大きく2点のポイントがあります。1点目は、生きがいそのものが変わっていく、ということです。また、生きがいの深さも変化していきます。知的好奇心についても、ただ知るということからだんだん深いものへと変わっていきます。2点目は、生きがいを得られる条件や公私の役割分担についても考えてもらいたいと思います。

そのような生きがいに対して何が公的な機関でまた民間でできるのかを検討してもらいたいと思います。

(資料2に基づき説明)

生きがいについて、これまで挙げられている事と、触れられていなかった所についてまとめました。①生きがいの領域を見ると、生きがいといっても様々な生きがいがあります。趣味的なものだけでなく、経験豊かな高齢者が就労に関わる事項で支援を行う、生涯学習、地域貢献なども挙げられます。②前提では、身体的な健康とこころの健康を保持することが重要です。身体だけでなく、精神的なことも含めて生きがいを考えるべきということです。また、自分で自由に過ごせる時間を持つことの保障についても考えていかなければいけません。今まで挙げられていた生きがいは、時間に余裕がある人の立場から考えていましたが、子育てや介護に従事している人はなかなか自分の時間がとれません。それらの人の生きがいも考えていくべきでしょう。③生きがいを実現するための要素では、一つに、拠点が必要です。前回までの話し合いでも廃校になった学校など既存の施設を有効活用していく事が提言されました。また、一つに、情報やネットワーク作りがあります。情報を管理して提供していくシステムが必要です。また、一つに、人材という要素もあります。新たな活動を展開するには、具体的なノウハウを教えてくれる人が必要です。また、一緒に活動する仲間も必要です。実践的な側面から見ると、人材を集めることが重要になります。④生きがいの多様性では、生きがいはライフサイクルの過程で、求められる個々人の役割と共に変化していくものと言えます。社会人としての生きがいや地域住民としての生きがいなど、立場によって生きがいも変わってきます。その他、介護を受ける側にある人の生きがいも考える必要があります。体が動かなくなった人に生きがいを求めるのは酷なのでしょうか。決してそうではないと思います。例えば治療の施しようのない末期ガンの人でも、自分の人生を肯定してその時を迎えられるような心の癒しの余地は残っています。生きがいを広く捉えれば、自分が存在することの意味づけを再確認する、といった深いレベルでの生きがいも考えられます。現在の私として、そして将来年を重ねていく時の変化、生きが

いの実現のための条件や公私の役割分担も含めてグループで考えて下さい。

○：それでは、今までの区取り組みと今後の取り組みについて、特に高齢者関係の生きがいに関して簡単にお話します。

これまでの区の施策は、平均寿命が短い、また高齢者の数も人口の1割に満たない時代につくられたものです。つまり、長い間働いていた人の「余生」として、楽しんでいただくことを目的としたものであったと思います。

娯楽やレジャーの場の提供や、高齢者クラブにおける活動に対する支援ということが大きなものでした。

しかし、いまでは平均寿命が80歳を超え、高齢者の人口も2割を超えようとする、つまり大部分の方が65歳以上まで生きられます。余生などという言葉ではおさまらない、第二の人生、或いは本当の人生と言う言い方も出てきました。また、65歳になっても働きたい、社会貢献したいという方も増えてきています。

そういった中で、高齢者向けの施設や高齢者クラブの参加者は年々低下しています。また、新しく高齢者になった人がなかなか参加しないといった状況にあります。

さらに、これから団塊の世代が定年になり、地域社会に還ってきた時には、生き生きと生きていくために、就労関係や社会貢献活動のあり方なども考えていくべきでしょう。この際、社会貢献活動といった面においては、区としても力強いパートナーとなってもらえると思います。

このように、現在の施策の基となっている状況、考え方と大きく変化しており、区としても施策を見直す必要があると考えています。

この分科会において、どのような施策が必要なのか、区や地域の方とどのように取り組んでいくかを検討していただければと考えています。

3. グループ討議

○：それでは、グループに分かれて話し合ってください。

(各班に分かれてグループ討議)

4. 全体討議

(各班の発表要旨)

<1班>

○ グループで3つの視点があった。

① 他人とのかかわり

② 自分にとって(自己実現)

③ 社会との関係の中で

(交通安全等の町会活動 ヘルパー業務) ⇒役割として認識できること

○ 行政と地域の協働

退職後の方や介護を抱える人を考える必要がある。

< 2・6班 >

- 1 生きがいの前提としての人とのふれあい
- 2 健康であること
- 3 障害介護状態を受け止める
- 4 人の為になる
- 5 前向きでいること
- 6 毎日を楽しむ
- 7 夫婦共通の趣味を持つ
- 8 好きなことを楽しむこと
- 9 子どもの成長
- 10 ボランティア活動
- 11 不安の解消
- 12 達成感が得られた時

< 3班 >

2つの特徴

(生きがい)

生きる為の価値や張り合い

(生きがいの前提の中でも)

経済的条件が抜き差しならない。

○各メンバーの生きがいを話し合った。

介護しながら学習している方も

心と体が絶対条件だが・・・

生きがいを実現する社会保障制度の完備（年金のみの生活者）

例えば

区独自の年金制度や情報ツールを開発することもあって良い。

< 4班 >

58歳以上を対象に想定

生きてきて得たことを社会に帰す

おたっしやクラブへの参加や学習へのサポート

高齢団地住居者への対応

西欧並みの福祉の充実

ことぶき館の活用（利用固定の改善等含め）

認知症の早期発見や学習会を同所で開催しても良い

< 5 班 >

- ① 心身の健康が前提
- ② 環境や経済状況による変化も加味する
- ③ 退職セミナーなどの開催

生きがいは自ら努力して探すもの

従来の娯楽型とは別のもの

町会や既存組織の閉鎖性

自営業層にとっての生きがい

多世代多目的活用拠点の整備

ソフト＝シニア公園など新たな発想もあって良い

一方でささやかな生きがいも

情報収集

生きがいにはお金がかからない

高齢者の文化が根付いていない

◎：もう1度整理しながらまとめようと思っていたのですが、あまりにも多様な意見が出たため、まとまらなくなってしまいました。

生きがいは辞書でみると、生きる価値となります。決して、生活に余裕があるから生きがいが求められるということではなく、すべての人の生き方そのもの、生きる質を高めるということが生きがいであり、全ての人の生活の中で考えていただきたいと思います。

憲法13条には「健康で文化的な最低限の生活」とあります。確かに今までの福祉は最低限を保障するものでした。これからは、より質の高めるということも考えていかねばならないでしょう。

色々な意見の中で、生きがいの前提として、基盤、インフラといったことがありました。また、語り合う、一緒に活動する仲間というものもあります。

他者との関わりは重要なことです。自分というものも、他人との関わりの中での自分であり、他人の目を通して自分が見えてくるのです。発表に出ていた、他人に感謝されることで喜びを得ることもそれに通じることと思います。

また、高齢者文化が根付いていないという指摘は興味深かったです。

高齢者は衰えていくだけの弱者と言う考えが主流でしたが、高齢者には高齢者の役割があると思います。趣味だけではなく社会的な力をどう発揮していくか、ということもあるのです。

また、生きがいには心身の健康が強調されていましたが、健康でなければ何も始まらないのでしょうか？病気や怪我などでもその状況に応じた生きがいはあると思います。色々な状況におかれても生きがいは求められます。以前は介護している人が休むなんてという風潮がありましたがそれでよいのでしょうか。

健康は大事ですが、病気になっても障害があっても生きがいは求められます。そういった状況になっても生きがいを感じられる社会を作っていくことが大切だと思われま

す。障害者の方についてもいえます。本来「障害者の生きがい」という表現はおかしいですが、同じ人間としての楽しみという意味で考えるべきだと思います。

今回は実際に色々な活動をされている方にお話をさせていただきます。また、行政でどうやっていくか、様々な地域でやっていることを集めて手がかりにし、考えていきたいと思

5、閉会

○：最後にチラシをお配りしました。ぼれぼれ福祉園のぼれぼれ祭りが11月12日（土）にあり、ボランティアを募集しています。また、障害者福祉センターで10月30日（日）にセンター祭が行われます。興味のある方は参加してください。

本日はこれでおしまいとなります。今日提言シートを書いていた方、またまとめたものなどあれば、帰りに受付の方へ提出お願いいたします。

<次回日程>

10月8日（土）午前10時～12時

新宿区役所 第1分庁舎 7階 研修室